



# 説林

## 動物愛憐と教育 (承前)

本田増次郎

蝦蟇。これは其形がみにくい者であるから、杖でうつたり石など投げる人が随分多い。けれども佛國では入用の者として之を育て、一疋三十錢乃至五十錢で賣買して居る。之は庭園に於て害虫を除く働をするからである。蝦蟇に付ては其の公爵ウエリントンに關する逸話がある。其家僕の子供が園の隅に蝦蟇を飼つて居て、毎日

食物を與へて居つたが、學齡に達して學校に行くことになつたものであるから、其蝦蟇の世話をする事が出来ぬのを悲んで泣いて居た。公爵は庭に泣いて居る子供に其故を聞いて、自分が引き受けて蝦蟇を飼ふてやることを約束して學校に行かせて、其後度々自筆の手紙を其子供に送つて、蝦蟇の安否を學校へ報じたといふことである。」

牛。米國のダニエルウエブストルは多くの牛を愛飼して居つたが、其死ぬる直ぐ前に、愛して居る牛を一々窓の前に牽きださせて、一々其名を呼んで別を告げたといふことである。牛は決して愚かな物でない能く恩を知つて居るエーリチエル氏の實驗によると、或る牛が牧場で長い綱で木につなかれて、其綱か足にもつれ

て困つて居た者であるから、通行人か之を見て其の綱を解いてやりましたのに、牛はうれしげな眼つきをして恩人の傍に来て、其袖をなめたといふことである。このなめるといふことは、動物が非常の親みを表はす禮である。

魚。アガシーは魚でも取ると直ぐに頭の後を、石又は棒で打ちて殺せよと教へて居りますこれは残忍を避けるばかりでなく、長く苦しませるのは其味を失ふからである。

猫。ダンテは其の猫に教へて蠟燭を其の足に持たせて、自分の讀書する傍に侍させました。ある友がある夜、箱から鼠を出してダンテの机の上に放ちましたから、猫は蠟燭をすて、鼠を追うたといふことである。

豚。これは愚かな者の様にいはれて居て、豚兒など

いふ引き合ひに用ゐられて居るけれども、豚もよく教育し、研究すると面白いものである。

ある蒸氣船の中に一つの豚と犬とか乗せてあつて、共に仲よく遊んで居つた。犬のためには寐場所がありました。豚のはありませんでしたから、互に一つの寢場所を用ゐて居たけれども狭いケネルであるから二匹一度に入ることには出来ない。風雨の時などは共に相争つて占領して居つた。或る風雨の夜、犬が先づ之を占領して豚が入ることか出来ぬ。そこで豚は一つの豚智を出して、食器のある所にいつて、切りにビチャ／＼食べる音をさせた、そこで犬は其音を聞きつけて、御馳走か出たと思ふてケネルから飛び出したものであるから、豚は忽ち其場所を占領したのである。

こんな話しは幾らもありますが先づこれ位として

世界各々の統計によれば、殺人犯の大多數は其

職業か殺生業の者である。又動物等を愛護する國

ほど殺人犯が少ない。是等の事實は決して軽い問

題ではない。故に幼少の時から動物を愛護するを

を教へることは甚だ大切なることである。(完結)

編者白す。本論は本田高等師範学校教授が、本會總會の席上に於ける演説の大意を筆記せるものなり。筆者の拙なるがため、演説の趣味の大部分を没し去りしこまは切に謝する所なり。尙前號に(完)せしは編者の粗漏として併謝す。

橋梁の觀察

野口保興

「フレーベル」會の設けられて有るといふことをわたくしこの學校に奉職ことでござりまするから、以前私は此學校に奉職ことでござりまするから、以前より承知して居りましたのです。所か自分は平常

に教へる學課から縁遠いといふので、或は、そんな風に殊更に考へました譯でもないのであります。が貴會の方からも私に對して、さういふ考への様に私には考へられました。「フレーベル」會が私の學課に縁遠いのは縁遠いに違ひない、併し又少々忌や味には相成ますが貴會の方でも、私が此會に出席しましたならば、矢張心理か數學の講義でも、するのであらう、さうならば「フレーベル」會には餘り入用でないと思はれるであらうと思ひます。さう思はれませぬでも、實際縁遠いのでありますから、少しもお恨み申す筈はないのです、所がどういふ譯でござりまするか多分演説者に御困りに成つたからでしようが一昨日でしたか中村さんからの御依頼で、明後日「フレーベル」會で何か話をしてくれまいかといふことであります。